

## 学校通信



矢巾町立矢巾北中学校

# わだち

## 『緑風北魂』

### 友愛・躍動・創造

2022. 05. 24

No. 06

〒028-3622

矢巾町大字上矢次 7-115

TEL : 019-697-1921

FAX : 019-697-7526

(文責：伊藤茂美)

# 突然の停電！その原因は？



先週金曜日の10時40分頃、突然学校全体が停電になりました。「電気の使いすぎでブレーカーが落ちたのかも？」と昭和的な考えが浮かび、配電盤を確認しましたが問題なし。次に考えたのは工事等に伴う計画停電でしたが、東北電力に問い合わせても本地区にそのような計画は無いとのことでした。あいにく、用務員さんはお休み。給食は既に届いていましたので「食べさせてから一斉下校か？」そんなことを考えていた時、本校に以前勤めていた用務員さんが

駆けつけてくださり、校舎に電力を供給しているキュービクルに電気が来ていないことを突き止めてくれました。到着した東北電気保安協会の方にそのことを伝え、学校近くの施設を確認してもらおうとショートした形跡が発見されました。その原因は何と蛇。たった1匹の蛇によって、あわや一斉下校の危機に陥ったのでした。今我々の生活の多くは電気に依存しています。電気や水道といったライフラインが止まったときにどう対処すべきか、日頃より準備・確認が必要と感じた出来事でした。



# 先輩、よろしくお願ひします

今年も、本校の卒業生2名が教育実習にやってきました。教育界の将来を担う貴重な人材ですので、しっかり勉強して行ってほしいと思います。感染症が収まらない状況下での実習となりますので、健康面には十分留意して、実り多い3週間にしてください。以下、プロフィールです。

	お名前 くまがい ことろう <b>熊谷虎太郎さん</b>		お名前 やまかげ もえ <b>山蔭 萌さん</b>
	大学名・教科 <b>福島大学・社会</b>		大学名・教科 <b>宮城学院女子大学・国語</b>
	中学校の部活動 <b>バレーボール部</b>		中学校の部活動 <b>卓球部</b>
中学校の思い出 部活動の朝練習が土日は午前6時から始まっていたおかげで、朝に強くなりました。	中学校の思い出 皐月祭や銀河祭、北翔祭などの行事を通じた学級での活動が印象に残っています。		
後輩へ一言 部活動も勉強も悔いを残さず、3年間で自分が成長できたと感じられる日々を過ごしてください。	後輩へ一言 皆さんとたくさん関わっていきたいと思っています。3週間という限られた期間ではありますが、よろしくお願ひします。		

## 「茂美少年物語」

本校では今年から構成的グループエンカウンターの研修を行っている。最近、生徒間の人間関係が希薄なことから起こる問題がいろいろと話題になっているが、そのことを改善する方策として注目されている心理学的アプローチの一つであるらしい。先日も講師をお招きして研究授業が行われたが、見様見まねでやれるほど簡単なものではないようだ。

研究授業に先立って、われわれ教員も一人の生徒となって授業を受けてみた。その中で「さいころトーキング」という、テーマを決めて自分の考えを話すものがあった。自己開示がこの方法のねらいであったのだが、それをやっているうちに初任のころに知り合った先輩の先生のことを思い出した。その先生



は、自分の幼少時のことをモチーフに「〇〇少年物語」という話を生徒に聞かせていた。自分の初恋のこと、友達とけんかしたこと、恥ずかしい大失敗のこと。生徒からすれば「先生もそんなことやってたんだ」と思うようなことを面白おかしく、しかも教育的なねらいも含ませて話してあげていた。先生と生徒の関係はうらやましいぐらい良く、生徒たちも仲が良かった。いつか私もあのような先生になりたいものだと思った。

数年後、私は担任外として生徒に授業することになった。知らない先生から教えられるという気持ちがあるのか、授業はしっくりしなかった。そんなとき、あの先輩の先生がやっていた「〇〇少年物語」を思い出し、まねをしてやってみた。学校に行きたくなかった日のこと、けんかをして友達に殴られたときのこと、初めて東京に行ったときのこと。よそよそしかった生徒の目が生き生きとしてきて、一気に仲良しになれた。生徒が寄ってきたというよりも、自分が生徒に近づいたという感覚だった。

数年後、私は担任外として生徒に授業することになった。知らない先生から教えられるという気持ちがあるのか、授業はしっくりしなかった。そんなとき、あの先輩の先生がやっていた「〇〇少年物語」を思い出し、まねをしてやってみた。学校に行きたくなかった日のこと、けんかをして友達に殴られたときのこと、初めて東京に行ったときのこと。よそよそしかった生徒の目が生き生きとしてきて、一気に仲良しになれた。生徒が寄ってきたというよりも、自分が生徒に近づいたという感覚だった。

「茂美少年物語」は好評を博し、20話を超える長編となった。今思うと、あれも一種の自己開示だったのではないかと思う。私という人間を包み隠さず出すことで生徒の共感を得、生徒との関係をつくることができたような気がする。

